



ほつとするね
緑の府中

指導室だより

第 84 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063

平成22年度「府中の教育を語る会」 続けよう！環境エコ

府中市教育委員会主催による第6回「府中の教育を語る会」が、11月6日（土）に生涯学習センターで開催された。

東京都教育委員会は、毎年、11月の第一土曜日を「東京都教育の日」とし、都民の教育に関する関心を高めるとともに、東京の教育を見つめ直し、子供の育成について考える契機とする日として諸事業を実施している。

府中市においても「府中市学校教育プラン21」に基づき府中市の教育の日とし、市民の教育に対する関心を高め、子供たちの教育について保護者、地域、学校、教育委員会が共に考える機会として「府中の教育を語る会」を実施している。

本年度は「続けよう！環境エコ」をテーマとし、府中第一小学校、府中第二小学校、小柳小学校、府中第九中学校の児童・生徒の代表、環境保全活動等にかかわる市民（NPO法人府中かんきょう市民の会）等一団体が、具体的な取組みを発表した。発表後、参観者との意見交換が

行われ、環境エコにかかわる意識の高揚を図ることができた。

また、東京農工大学大学院 准教授 降旗信一氏による講評と講演「教育振興基本計画における環境教育の位置付けとその実践的課題」があり、保護者、地域、学校、教育委員会が共に環境教育について考える機会となった。

このほか、会場ロビーでは、市立小・中学校33校が実践している各校の環境の保全等にかかわる取組み内容をまとめたポス



講演 東京農工大学大学院 降旗信一 准教授

◆府中第一小学校の実践 ◎植物マイスターの取組

府中第一小学校では、環境教育の一環として、毎年夏季休業日に「植物マイスター」を行っている。これは、東京農工大学と連携した特色ある活動でもある。

この植物マイスターは、府中第一小学校の子供たちに、もっと植物とかわりをもっとほしいとの願いから始められた行事である。今年で6年目となり、今回は、8月25日に行われた。〈植物マイスターの実施方法〉

①受付を済ませ第一ホールに集まる。ここで、学年や挑戦する級に合わせて10人くらいのグループに分かれる。

②各グループごとに校庭にある植物の名前や特徴について、東京農工大学の学生さんから40分くらい説明をしてもらう。

③校舎に戻り、廊下に並べられた植物の枝と名前を見比べながら、できるだけ沢山の植物の種類を覚える。

④大体覚えたという自信ができたなら、テストを受ける。チャレンジするのは、三年生、四年生、五年生、六年生と保護者の方で、成果の数に応じて段位がある。初級は、家庭科室で、25種類の植物の名前を当てることに挑戦

した。今年は、昨年度三年生で初級に挑戦した子が多かったの、四年生以上は全員理科室で42種類の植物の名前当てに挑戦した。

⑤理科室に並べられた植物の枝を見ながら、解答用紙に植物の名前を書いていく。

⑥第一ホールで結果の発表。

30種類以上正解した六年生は3段になった。また、参加した母親の中には、42問全問正解した方がいた。この植物マイスターに参加して、「今までと違った木の見方ができるようになった」などの感想があった。

◆府中第二小学校の実践 ◎校庭芝生化の取組

府中第二小学校は、昨年の夏から緑化推進運動の一環で校庭が芝生になった。

芝生の工事は、プールが始まる6月半ばから始まった。バックネットの移設、スプリングクレーの配管工事などがあり、夏休みになると、芝生を張り始めた。大きな芝のロールを敷きつめて、あつというまに校庭が芝生になった。あとは、芝がしっかりと根付くのを待つばかりであった。

夏休みも終わった9月、2学期の始業式は芝生の上で行われた。みんなで校庭の芝生をさわったときは、ふさふさして、くす

ぐったくて草のおいがしたのを覚えてる。

今年の5月には、芝になって初めての運動会があった。走るのには、少しすべりやすい感じでしたが、どの学年の踊りもはだして行われ、力強く踊りまわることができた。六年生は、組み体操を行ったので、砂がひぎに食い込む痛みもなく、技に集中して演技することができた。

休み時間の校庭での遊びでは、寝転がって遊んでいる子、側転やハンドスプリングに挑戦する子も見られる。転んでも痛くないし、よ、これも少ないので、座ったり、寝転がるのが気持ちいいという声もある。また、保健室の先生の話では、芝生になってからは校庭でのすり傷や切り傷が減ったそうである。

しかし、芝生化したことによって、大変なこともある。校庭が校舎の北側にあるので、3分の1ぐらいが日陰になること。冬場は芝の生育が悪いので、そこに保護用のシートをかけたたり、入らないようにロープで囲ったりして芝を守る。そのため外遊びが制限されたり、遊べなくなったりすることもある。

芝の管理は大変だが、心や体をいやしてくれる校庭の緑の芝を守り、身の回りの自然を大切にしていきたいと思う。

◆小柳小学校の実践

◎CO2削減の取組

小柳小学校では、「できることを学校でも！家庭でも！」をスローガンに、エコ活動を行っている。

○ゴミの分別

4月、整美委員会を中心に、ゴミの分別の仕方を一年生に教えたり、分別の仕方を全校で確認したりしている。また、各教室には、分別を分かりやすく説明したポスターを掲示し、分別に迷ったときに活用できるようにしている。

○環境月間の取組

6月、全校で、CO2削減に向けていろいろな工夫を行った。
一・二年生、仲よしは「電気・水・ゴミの分別」をクラスごとに表を作って行い、帰りの会で振り返りをした。

電気は、係や日直を中心に、気が付いた人が声を掛け合い、クラスみんなで意識できたかどうか考えた。

三年生は、家庭で「電気・水・ゴミの分別」を1週間調べた。その結果、エコをする自分が気持ちよくなる。これからも電気をこまめに消したり、水を大切にしたり、ゴミをちゃんと分別したりしたい、などの感想があった。

四年生から六年生は「CO2

アクション月間」とし、1週間の自分のエコ活動を数値化していった。小柳小学校の1週間でのCO2削減量は、756、2488で、622人のみんながエコを考えて行動した結果であった。何かをがまんすることで、CO2がだいぶ減らせると思った、などの感想があった。

このほか、7月「一年生のゴーヤ栽培」、9月「二年生から三年生のもう一度みんなでエコ活動の取組」、六年生の「エコバック」や地域清掃「ゴミ拾い」などの活動が行われている。

小柳小学校の六年生は、エコ活動の発信者として、これからも自分たちでできるエコ活動を続け、「CO2削減に一生懸命取り組んでいる」と胸を張っているように頑張っていきたい。

◆府中第九中学校の実践

◎環境エコ・プロジェクト

府中第九中学校では、生徒会役員が中心になってさまざまなエコ活動を実践している。

○「CO2削減アクションプラン」の活動について

この内容は、ゴミの排出量を減らし、CO2を削減する、という取組みであり、2つの活動を行っている。

一点目は、ポスターや全校朝会などで節電と節水を呼びかける活動。二点目は、夏休みに宿

題として各家庭のゴミ排出量、電気、ガス、水道水の使用量を調べさせ、それぞれの量を減らすための方法を考え、実践していく活動である。

この活動を行うことにより、学校では毎年排出している膨大な量のCO2の削減を実現することができ。さらに、二点目の活動では、CO2排出量の削減はともかく、自分たちの家庭が出しているCO2の量も把握することができる。

○アクションプランの実践

・冷房の温度を1度あげて設定する・冷房の使用時間を1時間短くする・冷蔵庫を無駄に開けない・テレビなどの電源を、リモコンではなく主電源から切る・シャワーの使用時間を一人1分短くする・ポットや炊飯器の保温をやめる、ということをした。その結果、府中第九中学校全体でCO2を856 kg削減することができた。これは、60匹の白熱電球を2518時間使う時にできるCO2と同じ量である。

このように、簡単なことを、生徒全員が実行することによって、すごい量のCO2を減らせることができる。

このほか、大規模な地域清掃、朝のちょこっとボランティア、エコキャップ運動にも取組み、

成果を上げている。エコ活動を通し、一人一人が小さなことを積み重ねることが、環境問題を解決する第一歩ではないかと考えている。

パネルで紹介

市立小・中学校の

環境教育の取組事例





授業力を磨く

～確かな学力の育成に向けて～

府中市立府中第六中学校

校長 清水 賢司

◆確かな学力の育成

中学校では、平成24年度に新学習指導要領が全面実施になる。現行の学習指導要領の「生きる力」を育てるといふ基本理念を引き継ぎつつも、教育基本法の改正、国内外の学力調査の結果、学力低下を懸念する世論などを受け、「確かな学力」の育成を強く意識した内容になっている。全国学力・学習状況調査やPISAの調査結果からも、日本の子供は「既知」の知識をつかいない力に課題があることが明らかになっている。「習得」した学習内容を「活用」「探究」に結びつける活動を、授業の中でどのように意図的に設定するか、新教育課程のもとで「確かな学力」を育成する授業が求められている。

◆確かな学力を育成する授業

新学習指導要領において、「生徒の思考力、判断力、表現力を

はぐくむ観点から、基礎的・本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。」と示されている。これは、教師による一方的な一斉・画一・説明中心の知識・技能の習得だけの授業からでは、新学習指導要領がねらいとする学びは成立しないことを示している。

この学びに関して、レイチェル・カーソンは、「センス・オブ・ワンダー」の中で次のように述べている。『知る』ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。子どもたちが会おう事実のひとつ一つが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、様々な情緒や豊かな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。学びを通して美しいものを美しいと感じる感覚、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などの様々な

の「転化」することである。教育技術・指導技術と言われるように、「転化」するためには、「技術の向上」が必要である。本年度、本校では「技術の向上」を目指して「生徒の現状に基づいた分かる授業の研究」を校内研究のテーマにして研究を進めている。「技術の向上」は、具体的には「授業力の向上を図ることであると考え、授業を構成する要素を分析し、その要素について各教科毎、改善に取り組んでいる。」

①質の高い発問

「既知」を「未知」にする発問。「ゆさぶり発問」とも呼び、子供が「既知」と思っていたことを発問により「未知」に変え、自ら追究を始めるような発問。答えが拡散する発問。

②授業を盛り上げる 板書の活用

板書計画の点検。黒板全面を使用できるか。板書の見えにくい場所の意識。レイアウトの意識。「板書は一枚の絵のごとく」。黄色チョークを使用。

③ノート指導の基本を重視

ノートに必ず書かれていること「日付・曜日・校時」「授業のめあて（本時のタイトル

や課題）」「学習（思考）の流れ」「授業のまとめ」。「ノートはその子だけの宝物」

④資料活用の充実

資料活用は学習のねらいを達成させる手段。電子黒板、映像はより多くの効果的な情報を与える。資料をまとめることから、資料から考えたことをまとめる。

⑤話術・表情 パフォーマンスを磨く

・ 明るい声。単調でない語り口。立ち位置や視線を意識。子供をひきつける「驚く」パフォーマンス。授業の中に1回はユーモアのある話。ほめる効果の活用。

このように授業力を磨くことにより、授業の質が変化し、「確かな学力」を生徒一人一人が身に付けることができると考え研究を進めている。

◆本校での取組み

「授業力を磨く」

子供が学校で最も多くの時間を過ごすのは授業である。今求められている授業とは「これだけは何としても教えたい」というものを子供が「学びたい」、追究したい、調べたい」というも



キャリア教育の充実 職場体験から学んだこと

府中市立中学校二年生

府中市立中学校の二年生が職場体験で学んだこと、協力をいただいた事業所の方と保護者からの感想、その一部を紹介する。

ありがとう

二年 女子

「ありがとう。がんばってね。」私がドアを開けてあいさつをしたときに、飼い主さんが言ってくれた。その時、笑顔になってくれるんだと思った。その他にも仕事をするとスタッフさんが、「ありがとう」と言ってくれて、ちょっとした仕事でもやりがいがあった。5日間の中で、「ありがとう」という言葉を何度も聞いた。その度に笑顔になっていい気持ちになった。だからその分、ありがとうという言葉、気持ちの大切さが分かった。これからは、常にありがとうの気持ちを忘れずに人と接し、沢山の人を元氣付けて笑顔にしてあげたい。

あいさつと見えない努力

二年 女子

私は今回の職場体験で府中市立中央図書館に行きました。

色々な体験や普段見ることのない書庫の見学などたくさんを経験することができました。その中で私が印象に残ったことが2つあります。

一点目はカウンターでの接客でした。私はカウンターで貸出返却をやりました。手順はわかっていたのですが、実際に利用者の方々に前になると緊張してあまり声も出ず「あいさつ」をするのも忘れてしまっていました。その時司書の方に「しっかりとあいさつすることは、人と人をつなぐきっかけだから忘れなさい」と言われました。私はどんな時でもあいさつは大切だなと、その時改めて感じました。

二点目は利用者の方々の前には出ず、裏で本をきれいにふくという作業をしたときのことです。図書館の本は色々な人たちが借りていくので、きれいな本でもすぐに汚れてしまいます。そんな本をふいてきれいにする仕事で特にシールのベタベタをはがすのがとても大変でした。本にこびりついてなかなか取れないので、腕もとても疲れまし

た。その作業中に今度は違う司書の方に「見えない場所で頑張るからこそ見える場所で輝くんだよ」と言われました。その時、私は仕事の大変さは見えないところにあることが多いのではないかと考えました。また、大変さや苦勞が大きいほど利用者の方が喜んでくれた時はとてもうれしいのではないかと思いました。

このような経験を通して、私は普段の生活にも十分生かせることも大切なことを学ぶことができました。あいさつや日ごろから見えない場面での努力は、勉強や習い事など他にもたくさんあることにつながると感じます。仕事の大変さや楽しさだけでなく、普段の生活に生かせる術を学べた職場体験。現在、そして将来に向けて色々な場面で役立っていききたいです。

勉強になった職場体験

二年 女子

2学期に入ってすぐ、待ちに待った職場体験が始まりました。私が行った押立第二保育園には、1才から3才の子たちがいて、私は2才の子たちのお世話をしました。2才の子たちのクラスは、もも組。もも組のみんなは、初対面の私にも、気軽に話しかけてくれたし、人見知りをする子が少なかったため、私もとても

もやりやすかったです。一日目には分からなかったことも、二日目、三日目になると、だんだん覚えることができたし、子供の名前を覚えることもできました。体験の中で、私が心に残っているのは、もも組のみんなとダンスをおどったこと。ここでおどったダンスは、運動会のおどるダンスで先生方が前から考えていたものでした。先生

がダンスをもも組さんに教えた後、みんなでおどりました。おどっている時、もも組さんは、とても笑顔で楽しそうだったので、私も自然と笑顔になりました。ダンスをおどっていたみんなは、とても可愛かったです。

職場体験中、楽しいことはたくさんあったけど、大変だったこともたくさんありました。たとえば、お昼寝の時間。みんななかなか寝ようとしなくて、寝させるのがとても大変でした。なかには、寝ている子を起こそうとする子もいたので、先生方は大変だなぁと思いました。でも、そんなことも職場体験最終日になると、自然と慣れていきました。

職場体験では、楽しかったこと、大変だったことなど、たくさんありました。でも、いい事も悪い事も、自分にとっては、とてもいい経験だったのでよ

かったです。また機会があれば押立保育園のもも組さんと会えるといいです。5日間本当にありがとうございました。ごさいました。

◎事業所の方と保護者からの感想
◎労力を惜しまず、何かの役に立ちたいという思いが伝わり、一生懸命に取り組む礼儀正しさ・あいさつに感心しました。笑顔でよく頑張る、すてきな二人でした。(福祉施設)

◎素直でまじめな生徒たちでした。麵を切っているときの楽しそうな顔が印象的でした。難しい説明よりも生の体験を求めているのだなと思いました。(飲食店)

◎まだ13、14歳ですので、将来の希望がはっきりしている子と、いない子がいて当たり前。それでも一人一人一生懸命考えて、取り組んでいる様子が伝わってきました。利用者さんもほほえましく見守ってくださいました。(介護保健施設)

◎本人なりに頑張ることができた様子で、とても良かったと思います。貴重な体験の機会をいただきありがとうございました。(保護者)
◇楽しんで取組めたようです。これを機に、具体的な将来像を思い浮かべ、より努力(勉強)していけるようになると思います。(保護者)

中学生科学教室

科学教育の 充実を目指して

中学生科学教室事務局

担当 浅沼 昭夫

《講座内容の改善と充実》

中学生科学教室は、市内在住の中学二年生を対象に、年間10回の講座を開設している。新学習指導要領への移行に伴い、今年度から指導内容を見直しつつ新たな講座内容を設定した。

具体的には、従来の「細胞分裂の観察」に「DNAの抽出」を加え、急速に進展している生命科学への関心をもたせることを意図した。

また、「電池」においては、化学電池、燃料電池、太陽電池など現代社会が直面している環境やエネルギー問題を念頭において、さらに充実させた内容となっている。

さらには、「電流と磁界」の学習では、理論や知識だけでなく

◆キリンの骨格標本を前に
(多摩動物公園)



さらに科学への関心や意欲を高められるという実態があり、今後も継続していく。
こうした内容の充実に加えて、今回は市立中学校の協力を得て、募集前に各教室にポスターを掲示したことも相まって、定数30名を大幅に超えたため、急ぎよ40名を受け入れた。選考に漏れた生徒に対しては誠に申し訳なく思っている。

《生徒の感想から》

・今日の学習では、専門的な先生に天体のことを学ぶという貴重な経験がすることができた。実際にプラネタリウムを見て、解説を聞いてみると宇宙の規模の大きさに驚き、いかに自分がちっぽけなことかと思えてきた。この広い宇宙にはまだまだ解明されていないことがたくさんあり、皆さんの興味をもつことができ

た。もし機会があれば、天体についてもっとくわしく調べてみたい。(第2回『プラネタリウム』)
・今日の動物の生態観察は、自分が思っていた場所と違うところに「ひじ」や「ひざ」があったので、とてもビックリしました。また、ヘビやサル、コウノトリの骨格標本、普段めったに見られない動物の皮

などが見られてとても楽しかったです。(第3回『動物の生態観察』)

・DNAと聞いても今まではピンとこなかったけれど、今日タマネギを使ってDNAを取り出してみたら、「これがDNAなんだ。」と思い、少し身近に感じられた。また、一つの細胞のDNAをつなげると1.8mもの長さがあり、ヒトの細胞を合計すると、地球から太陽までを300往復するくらいと思った。もっと、DNAについて知りたいと思った。

(第5回『DNAの抽出』)
このように、事後のアンケートからは、生徒の満足度の高さとともに、科学への興味・関心が確実に高まっていることがうかがえる。その背景には、講師の先生方の熱意に加えて、本講座を経験し、さらに特別研修を行った2名の高校生がボランティアで学習支援を随時行っていることもあげられる。科学に対する好奇心旺盛な先輩、良き手本として、共に学ぶ良い雰囲気を作り出している。

《課題と願い》

新教育課程の実施により、授業時数の増加と学校週5日制を維持する関係から、各学校では

学校行事に加えて土曜授業の日が増えている。そのため、受講生は学校優先という原則からやむなく欠席する状況がある。

また、学校の先生方の多忙化が進み、市内の理科の先生が講師という原則を維持することが極めて困難である。献身的な先生方によって本事業が支えられていることも言及しておきたい。若手の先生方が講師となり、教材開発や授業実践を通して理科教育の奥深さを究め、授業力を高めていくことができればと思うところである。

今後も、さらに学校と連携し、本事業を通して府中市の科学教育の充実にも少しでも寄与できればと願っている。



◆顕微鏡観察
(市立教育センター)

12月研修会・委員会等予定	日	曜	研修会・委員会等	会 場	研 修 内 容 等
	2	木	金	第4回就学指導協議会	教 育 セ ン タ ー
3	木	金	体力向上委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会
6	月	火	生活指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
7	火	火	初任者等研修	学 校	授業参観・協議等
9	木	木	小学校英語活動推進委員会	学 校	授業研究・協議等
9	木	木	教務主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
9	木	金	ICT活用推進委員会	府 中 第 五 小 学 校	授業研究・協議
10	金	金	食育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
13	月	火	特別支援学級代表者会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
14	火	火	学校図書館推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会、分科会
20	月	月	幼児教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会



日本に四季があることの有り難さを感じる。八月の夏の猛暑が懐かしく感じられ、心地よい秋空が澄みわたり、ひと冬を越えると必ず春がくる。そして、また一年、歳を重ねる。

筆筒の中の夏物を押し入れに片付け、冬物の衣類を乾燥した秋風にさらしたとき、冬の到来を感じる。また、深々と降る雪は、何か自分自身に深く問いかけているように感じられる。大らかな自然が四季を演出し、生活に変化を与え、心の豊かさを培うきっかけとなる。先日、電車の中で大きなくしゃみが聞こえてきた。続けて2回目か、。なんとなく周りの人の表情から、自分に風邪がうつることを心配するような気配が感じられた。

その時、隣に座っていた女性が「大丈夫ですか、お大事に」と小さな声で相手を気遣う言葉を掛けたのである。相手はそっけないそぶりで、首を縦に振っていた。

他者とのかかわりの中で

小さな出来事だが、刻まれた印象は深い。この一言で全く知らない者同士が新たな人間関係を結び、その場にいた者に心の潤いを与えている。何か忘れてはならない大切なものがあることを感じた。

物質的な豊かさの裏側で、ますます他者とのかかわりが希薄になる現状がある。買い物に行き、店員さんと一言の会話もせず、欲しいものを手に入れることができる社会がある。便利さや効率化による様々な恩恵を否定するものではないが、他者とのかかわりの豊かさは、社会の土台となり、人間を成長させるのである。

様々な犯罪、少年非行等がニュースとして伝えられる。その背景には、規範意識の低下、家庭の教育力など、様々な要因が挙げられている。しかし、根本的なことは、日々の社会生活の中にある。子供たちの心の成長にとって、大人が果たすべき責任は大きい。人としての在り方を社会生活の中で、自然と学んでいく社会へ成熟することが必要である。

そのために私自身が冬となり、春となり、他者とのかかわりの中で、声を掛けられる人間に成長したいと考えている。
(統括指導主事 金子 真吾)

学びの窓

観光案内人ボランティア

市民生活部経済観光課 尾花 新
観光案内人ボランティアの存在をご存知だろうか。府中市は、大國魂神社をはじめ、国府跡、馬場大門のけやき並木、浅間山など、様々な史跡や自然を有している。その府中市を散策しながら、歴史的背景を丁寧に解説してくれるのが観光案内人ボランティアである。

8年前に結成されたこのボランティアは、毎週開催する史跡巡りを行うミニツアーをはじめ、広報ふちゅうで参加者を募集する、観光ガイドツアーを行っている。巧みなボランティアの解説に、市外の観光客は勿論、市民でさえも新たな発見に感嘆の声をあげることが珍しくない。

また、夏休みには、小学生と保護者を対象とした「親子で探そう郷土かるた」という企画を行っている。親子でかるたの読み札が書かれた標識を探し訪ねることにより、府中への郷土愛をはぐくむとともに、親子のきずなを深めることができる企画である。

観光振興に加え、健全な子供の育成にも尽力している観光案内人ボランティアの活動に、注目して頂けたら幸いである。

あとがき

チリ北部のサンホセ鉱山で発生した落盤事故。地下700メートルに閉じこめられた33人の作業員の救出活動は、世界中の注目を集めた▼おおよそ70日間に及ぶ地下での生活は、想像を絶する困難があったに違いない。それを乗り越えられたのは、互いに支え励まし合い、信頼という固いきずなで結ばれていたからである。さらに彼らを勇気付けたのは、無事救出されるのを待ち望んでいた家族とその活動に献身的に携わった人々の愛であると言える▼救出用カプセル「フェニックス」(不死鳥)によって奇跡の生還を遂げた作業員の姿に感動し、改めて命の重き尊さを感じたのは、私だけであろうか。きっと、このニュースを見ていた多くの子供たちも同じ思いをもったであろう▼暗い話題が多い中、33人のドラマは、私たちに、かけがえのない命と生きることへの素晴らしさを伝えてくれた▼『幸福は世にあるものだ。しかしわれわれはそれを知らない。いや、知っているが、それを尊重することを知らないのだ。』(ゲーテ)▼日本では、日本人研究者2名がノーベル化学賞を受賞。人類への多大な貢献に感謝。
(小澤 宏)